

こうがく  
**香樂の時間**

…音を楽しむのが音楽、香りは香樂…

(2) 名香方程式

方程式という言葉をかきただけで蕁麻疹がでるとい人もいそうですが、これからの話に身構える必要はありません。名香といわれる香水のレシピには共通する構造があるという話をしたいのです。自然界には、ちょっと見ただけでは規則性などないように見えても、良く調べてみると方程式にあてはまるような、ちゃんとした構造がひそんでいることがあります。一例をあげましょう。

地球上にあるいろいろな島の面積を大きい順にならべてみると表1のようなデータになります。

島名	順位	面積(平方キロ)	島名	順位	面積(平方キロ)	島名	順位	面積(平方キロ)
グリーンランド	1	21756	ジャワ	11	1265	イスパニオラ	21	752
ニューギニア	2	7890	ノースアイランド	12	1147	セイロン	22	656
ボルネオ	3	7463	キューバ	13	1115	タスマニア	23	633
マダガスカル	4	5953	ニューファンドランド	14	1107	ティエラデルフェゴ	24	482
バフィン	5	4761	ルソン	15	1047	ベストスピッツベルゲン	25	390
スマトラ	6	4736	イスランド	16	1028	ニューブリテン	26	365
本州	7	2305	ミンダナオ	17	946	ノバヤゼムリア南	27	363
グレートブリテン	8	2168	アイルランド	18	844	台湾	28	358
セレベス	9	1794	北海道	19	779	九州	29	357
サウスアイランド	10	1540	樺太	20	760	ハイナン	30	340

表1・世界の島の面積と大きさの順位表

1番大きい島はグリーンランド、2番はニューギニア、ずーっと下って7番に日本の本州がくるという具合です。このデータをグラフにすると図1のようになり、 $Y=27827X^{-1.25}$  という方程式にあてはまります。これは島の面積は大きさの順位のマイナス1.25乗の27827倍という関係があるということですが、ややこしいと感じる人は、とにかく島の面積とその順位との関係はた らめではないんだと理解してください。

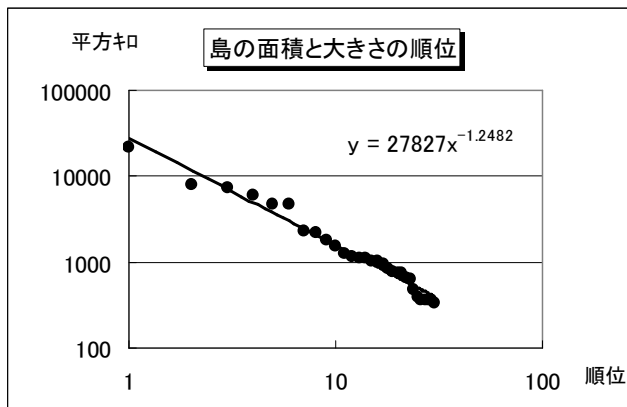


図1・島の面積とその順位グラフ

本題の名香のレシピですが、結論からいうと、「香水を構成している成分を多い順にならべて関係を調べると、それが名香であれば  $Y=ae^{-bx}$

という方程式にあてはまる。」というものです。例えばレールデュタンの成分を多い順に並べてグラフにすると図2のようになり、96%もの適合率であてはまっています。

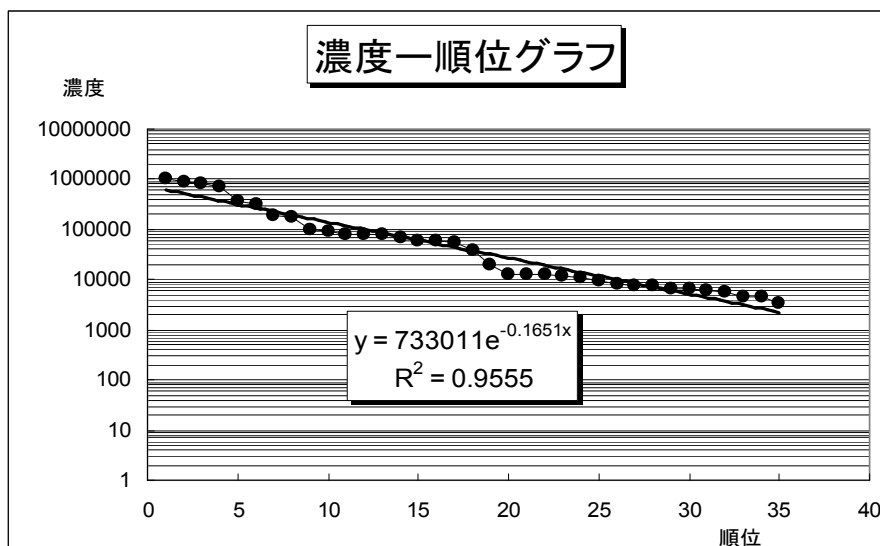


図2 レールデュタン成分の濃度-順位グラフ

香水のレシピは調香師がつくったものですが、おどろくなかれ、実は天然香料の成分とその順位の関係も同じ方程式にあてはまるのです。例えばジャスミンでは図3のようになります。

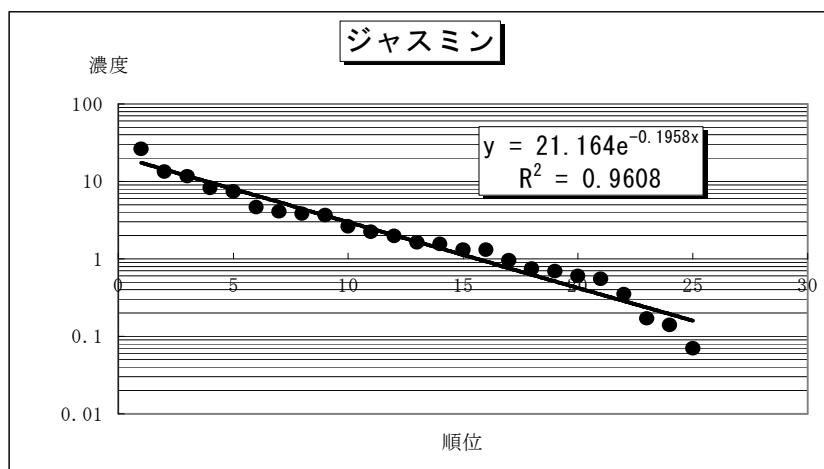


図3 ジャスミン組成の濃度順位グラフ

調香師は知らず知らずのうちに、天然香料にみられる神様のレシピに近いものを創作していたことになるのです。

この発見を応用すればだれでもが名香を処方することができます。

具体的には多い順に 85, 73, 62, 53, 45, 38, 33, 28, 24, 20, 17, 15, 13, 11, 9.1, 7.7、……という配合比にすればどれも名香になるというわけです。

実際、方程式にのった配合比のものと、わざとあてはまらないものを試作して、何人かの調香師に判定してもらったところ、あきらかに前者の作品が優れているという評価をいただきました。

また、このような名香のレシピが発見されたことについての調香師の反応は二つに分かれます。

一つは「こんなものが発見されては調香師の商売アガッたりだ」と苦笑する反応、もう一つは「おもしろい、これを土台に創作の巾が広がる」という期待反応です。当然後者の受け止め方が正解です。いくら名香方程式が発見されたからといって創造性を阻害することにはなりません。それは遠近法を知っているからといって絵画芸術がつまらなくなるものではないのと同じです。芸術にはそれを無視したり、あえて反する作品をつくったりする権利があるのですから。

私のこの発見は世界化粧品技術者会(ハンガリー大会)で発表しておりますので詳細を知りたい方はそちらの論文をご覧ください。(http://www.kosui.jp/にもアップしております。)